

感染性胃腸炎

①細菌又はウイルスによる嘔吐、下痢を主症状とする感染症である。原因はノロウイルス、ロタウイルスが多く、エンテロウイルス、アデノウイルスや細菌性のもみられる。毎年秋から冬にかけて流行する。

②感染経路は、病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。

③症状は病原体により異なりますが、潜伏期間は1～3日程度です。

ノロウイルスによる胃腸炎では、主症状は吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛であり、小児ではおう吐、成人では下痢が多いです。有症期間は平均24～48時間です。

ロタウイルスによる胃腸炎では、おう吐、下痢、発熱がみられ、乳児ではけいれんを起こすこともあります。有症期間は平均5～6日です。感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。

アデノウイルスによる胃腸炎では、下痢が主症状で発熱、おう吐は軽度である。3歳以下の乳幼児がかかりやすい傾向です。有症期間は平均1週間です。

④特別な治療法は無く、症状に応じた対症療法が行われます。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので早めに医療機関を受診することが大切です。

⑤おう吐の症状がおさまったら少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるよう心がけましょう。

⑥予防方法

ロタウイルスによる感染症については、予防接種ワクチンがあり、乳幼児を中心に接種を受けることが行われています（任意接種）。

ノロウイルスについては、予防接種はありません。

トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

便やおう吐物を処理*する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。

⑦目黒区の小中学校、保育園では診断がついて、嘔吐、下痢が治まり、通常の食事がとれ、体力が回復するまで登校登園を控えることになっています。

東京都感染性胃腸炎流行状況

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/gastro/gastro/>

都民向け情報リーフレット「感染性胃腸炎」にご注意ください。

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/assets/diseases/gastro/hitokuchi-joho.pdf?2016102>

6